

日進月歩するデジタル製品を、「使い勝手」ではなく、「実装された新技術」と「製品の革新性」をテーマにレビューしていくコーナー。

塩田紳二

au W32SA (KDDI)

携帯を持った子供の居場所が わかる安心ナビ対応携帯電話

お互いの位置情報を 通知できる

W32SAは、au(KDDI)のCDMA2000 1xWIN対応の最新携帯電話。テレビやFMラジオの視聴が可能、定額制データ通信(ダブル定額ライト)などに対応している。

この端末は、KDDIが提供する新しい位置情報サービス「安心ナビ」対応機種の一つだ。安心ナビとは、簡単にいえば対応する携帯電話同士ならば、他の端末の位置をメールによって取得できるというもの。auのほとんどの携帯電話にはGPSを応用した位置測定機能があり、相手の携帯電話が取得した現在位置をメールなどで取得できる機能である。具体的には、「エリア通知」「位置確認メール」「いつでも位置確認」の3つのサービスからなり、「いつでも位置確認」のみ月額315円の料金がかかるが、残り2つは特に月額料金は不要だ(どれも通信料金が発生する)。

自分の位置を人に教えて何がおもしろいのかというと、これは親が子供の居場所を確認したり、外回りの営業マンが現在どこを巡回しているかを確認したりするためのものなのだ。子供を持つ親に

とって、現在は安心できる時代ではない。毎日のように親の不安を誘うような事件が起こる。かといって、子供を家に閉じこめておくわけにもいかない。というわけで登場したのがこのサービス。これを使うことで、特定のエリアへの出入りや現在位置を親の携帯電話から確認できるのである。

エリア通知は、指定時刻に特定の場所に入ったか(あるいは出たか)を通知するもの。たとえば、学校や塾にちゃんと行ったかどうかを確認できる。

「位置確認メール」と「いつでも位置確認」は、「問い合わせメール」を出して、相手端末の現在位置を取得するもの。ただし、「位置確認メール」では、その都度、相手の端末側で手動で応答する必要がある。これに対して有料の「いつでも位置確認」は、自動で応答が可能。ナビメニュー全体にパスワードでロックが可能なので、子供が設定を変更しないようにもできる。

位置検索が簡単な CDMA2000

auが採用するCDMA2000は、米国Qualcomm社の技術である。米国では、

E911という法律(2001年施行)で、通信事業者は、緊急通報時に端末の位置を特定できるようにしなければならなくなったこともあり、Qualcomm社は、GPS機能を搭載した携帯電話チップセットを開発した。現在のものは、Qualcomm社に買収されたSnapTrack社の技術をベースにしたもので、携帯電話で受信した信号とネットワーク経由で接続したサーバーの補助によって位置を算出するもの。CDMA2000の基地局は、基地局間で時間を正確に同期させるためにもともとGPSを利用するシステムになっている。かつ端末が複数基地局と同時接続できることもあり、ネットワークを使うことで単体のGPS機器よりも高速に位置測定が可能になる。この技術をgpsOneと呼ぶ。

ただ、昨今の社会状況を考えて、子供の居場所確認といったサービスにしたのはさすがだ。以前にも他の携帯電話の位置検索サービスとして「EZお探しナビ」はあったが、わりと操作が複雑で、しかもチケット制だったために利用しづらく、目立たないサービスだった。そこで、端末の操作を簡単にし、かつメニューも統一して、誰でも使いやすくなったのが「安心ナビ」だ。ケータイ一つで安心を手に入れられるならば、子供を持つ親だったら一度は購入を考えてしまうサービスといえるだろう。

ただし、残念なのがこのサービスはauの対応端末でしか使えない点だ。こういったサービスは、他のキャリアでもぜひ開始して欲しい。そしてキャリア間の垣根を越えて利用可能になれば、より利用価値が上がるだろう。

[Reviewer's View]

テレビやFM、音楽再生に加え、安心ナビが利用可能なW32SA。親が子供の居場所を調べることができる安心ナビは、子供が心配な親御さんの必需品かかもしれない。CDMA2000チップセットはgpsOne技術を採用しており、ネットワークとGPSを併用した位置検出が簡単になっている。このため、auだけが位置を利用したサービスを展開している状態。安心ナビは、その技術と昨今の社会状況をうまく組み合わせたサービスである。

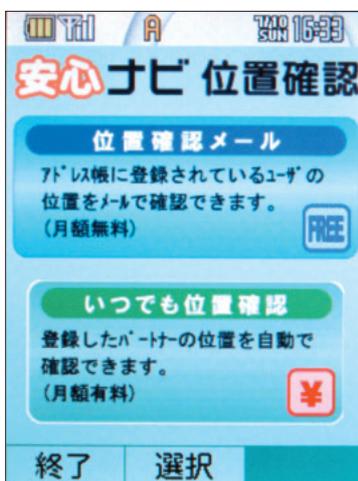


豊富な機能を持っているが、デザインとしてはスタンダードなもの。液晶ディスプレイの下部には、ステレオツインスピーカーが搭載されている。

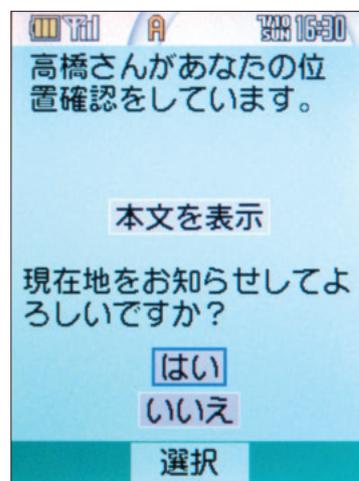


カラーリングは写真のレイヤードオレンジのほか、デュアルブラウンとグレーピングシルバーがある。

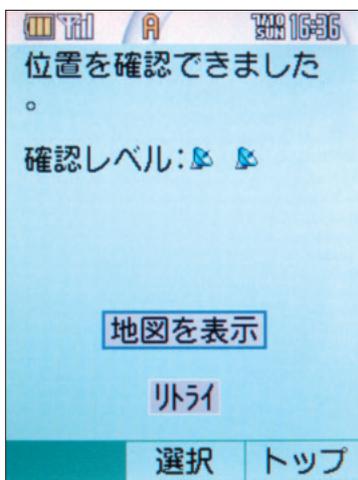
W32SA は、auのCDMA2000 1xWIN対応の三洋電機製の端末。5月に発表された安心ナビやEZテレビなどのサービスに対応している。また、データ通信の定額サービスにも対応。音楽再生やダウンロードなどに加えてテレビやFMラジオの視聴が可能で、FMトランスミッターを内蔵し、カーステレオなどで音楽を聴くこともできる。オートフォーカスの126万画素CCDカメラを内蔵し、記憶メディアにはminiSDカードを採用。



「安心ナビ」のメニュー画面。無料で利用できる「位置確認メール」と、有料サービスの「いつでも位置確認」がある。



「位置確認メール」で、確認したい相手を選ぶと、相手に位置を問い合わせるメールが届き、位置を教えるかどうかを選択できる。



同意するとGPSで位置を測定して、相手に通知する。状況によってはGPSの測定に誤差が生じるため、誤差のレベルがアンテナの数で表される。



地図の表示を選ぶと、EZナビウォークが起動して位置情報が表示される。このままその地点までのナビが可能。

iPod 60GB

(アップルコンピュータ)

Podcasting や写真に対応した ハードディスク内蔵プレーヤー

Podcasting ってなに？

iPodといえば、今や携帯用音楽プレーヤーの代表といえる製品だ。最新モデルでは、全機種カラー液晶を装備したので、かつてのiPod、iPod Photoという区別がなくなり、再びiPodという名称に統一された。

この最新のiPodと、iPod用のソフトウェアであるiTunes 4.9から、Podcastingという機能が加わった。簡単にいえば、ラジオ番組を録音して聞くようなものだ。Podcastingとは、ラジオ番組のように音声による会話などを録音したサウンドファイルをインターネット上で配布することで、実際のラジオ番組の録音もあれば、独自の番組として配布されているものもある。個人でも簡単にできるので、中にはブログ代わりに自分のトークを音声ファイルにして、Podcastingとして配布する人もいる。Podcastingは、自分で音声を録音し、RSSデータを用意してインターネットで公開するだけでよい。最近のブログサービスの中には、音声ファイルをアップロードすると、自動的にRSSデータを生成してくれるところもある。

新しいメディアに流行の兆し

いまさらラジオ、と思った方もいるかもしれないが、インターネットから音声データをダウンロードすることで、少なくとも音質などは受信状態に左右されず、聞いている感じとしては、朗読CDや安定したFM放送を聞いているかのようである。また、ラジオ番組と違っ

て、好きなときに聞けるし、中断、再開も自由。また、iTunesが定期的にデータをチェックしてダウンロードしてくれるので、録音の手間もない。

なによりいいのは、音声なので、何かしながらでも聞くことができる点。通勤時に聞いてもいいし、何かしながら聞くこともできる。このあたりが映像とは違う。音楽と違ってコマーシャルを入れることもできるので、新しい広告メディアと考える人もおり、米国では個人が行っているPodcastingに大手企業がスポンサーに付いた例もある。

特殊な機能は必要ないので、他社の製品でも今後は対応するところが出てくるだろう。今年はちょっと流行になるかもしれない。



[Reviewer's View]

ラジオ番組などの音声ファイルとRSSで配信されるPodcastingは、内容はラジオ的だが、ラジオのような受信状態や放送時間に影響されない点で、まったく違ったメディアと見ることもできる。また、Blogのように個人が発信できるというメリットもある。

放送メディアとインターネットの融合の具体的な姿ということもできるだろう。システム的には難しい技術ではなく、他社のプレーヤーも追随するのではないか。そうすると今年の流行の1つなのかも。

iPodの現行機種はすべてカラー液晶を装備している。このため、写真やジャケットの表示などが可能。また、iTunes 4.9からは、ラジオ番組などを収録したPodcastingと呼ばれる音声データをインターネットから自動的にダウンロードできるようになった。Podcastingには、従来機種もアップデートで対応が可能。iPodは家電的な製品ではあるが、PCのようにサードパーティーの周辺機器ビジネスができるようにコネクターなどが公開されていてパソコン的な面もある。

ImPhone

(エニユーザーグローバル)

USBでPCにつなぐだけで使える インターネット電話システム

専用USBデバイスを使う IP電話

VoIPを使いたいいわゆるインターネット電話サービスは、すでに多くの会社が運営を行っている。多くの会社が参入しているため競争が厳しく、どのように差別化を行っていくのが問題になるわけだが、このImPhoneは、USBメモリー型の専用デバイス(ImPhone 端末)を使う方式を採用した。

簡単にいえば、PCにデバイスを装着すれば、ソフトウェアが自動起動し、USBデバイスに接続したイヤホンマイクで通話が可能になる。なので、インターネットにパソコンが繋がった環境ならどこでも通話できるわけだ。デバイスはUSBメモリーにもなっているため、そこにプログラムや電話帳が格納されている。ただし、USBデバイスを使う関係で、使えるのは、Windows 2000/XPが動くパソコンに限

られる。

料金をみると、ImPhone同士は無料、国内固定電話で3分7.8円、携帯電話で17.3円/分(ともに月額支払いプランの場合)となっている。料金プランは、月額350円の月額支払いプランと月額料金が不要なプリペイドプランの2つ。どちらの場合も3,970円のImPhone 端末(イヤホンマイク付き)を購入して利用する。

ソフトとハードと設定が 1つになった

ソフトだけの通話サービス、たとえばSkypeでは他のマシンで使うときには、別途インストールや自分のIDなどを設定する必要がある、いざ新たに設定しようとしたときに自分のIDがわからないなんてことがよくある。このImPhoneならば、USBデバイスにソフトウェアからハードウェア、設定まですべてを入れて持ち歩ける。つ

[Reviewer's View]

現在では、さまざまなIP電話サービスがあり、競争も激しい。ImPhoneは、専用のUSBデバイスを使うサービスで、デバイスを装着すれば、ソフトウェアが自動的にインストールされ、利用可能になる。完全なソフトウェアによるサービスよりもわかりやすい部分もある。どのパソコンから使っても常に同じ設定で利用できるのは便利。一般電話や携帯電話への発信が可能で、月額料金が不要なプリペイドプランもある。

まり、このデバイス1つで完結していると言えるのだ。ソフトのみの通話サービスよりも、この方が初心者にはわかりやすいかもしれない。

固定電話やIP電話などの通話サービスは、いまやいろいろなサービスが乱立状態。さらに、さまざまな割引サービスなどもあり、固定電話などでも料金はかなり安くなってきた。このため、IP電話といえども、料金的には以前のような大きな差がなくなってきたため、今後は、サービスや利用のしやすさといった点がポイントになるのではないだろうか。



ImPhone は、USBに接続する専用デバイス(ImPhone 端末)を使うIP電話サービス。デバイスは、USBメモリーにもなっており、ソフトウェアやドライバー、各種の設定ファイル、電話帳などが保存される。これを装着すれば、どこでも同じ設定で通話が可能。デバイスにイヤホンマイクをつなげて使う。料金プランには、月額支払い(350円)とプリペイドの2種あり、一般電話宛での通話で3分7.8円から。音声だけでなくウェブカメラを使ってのビデオ通話にも対応。着信転送サービスなどもある。



[インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ] ご利用上の注意

このPDFファイルは、株式会社インプレスR&D(株式会社インプレスから分割)が1994年～2006年まで発行した月刊誌『インターネットマガジン』の誌面をPDF化し、「インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ」として以下のウェブサイト「All-in-One INTERNET magazine 2.0」で公開しているものです。

<http://i.impressRD.jp/bn>

このファイルをご利用いただくにあたり、下記の注意事項を必ずお読みください。

- 記載されている内容(技術解説、URL、団体・企業名、商品名、価格、プレゼント募集、アンケートなど)は発行当時のものです。
- 収録されている内容は著作権法上の保護を受けています。著作権はそれぞれの記事の著作者(執筆者、写真の撮影者、イラストの作成者、編集部など)が保持しています。
- 著作者から許諾が得られなかった著作物は収録されていない場合があります。
- このファイルやその内容を改変したり、商用を目的として再利用することはできません。あくまで個人や企業の非商用利用での閲覧、複製、送信に限られます。
- 収録されている内容を何らかの媒体に引用としてご利用する際は、出典として媒体名および月号、該当ページ番号、発行元(株式会社インプレス R&D)、コピーライトなどの情報をご明記ください。
- オリジナルの雑誌の発行時点では、株式会社インプレス R&D(当時は株式会社インプレス)と著作権者は内容が正確なものであるように最大限に努めましたが、すべての情報が完全に正確であることは保証できません。このファイルの内容に起因する直接のおよび間接的な損害に対して、一切の責任を負いません。お客様個人の責任においてご利用ください。

このファイルに関するお問い合わせ先

株式会社インプレスR&D

All-in-One INTERNET magazine 編集部

im-info@impress.co.jp